



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
コード番号 3086
代表者名 代表執行役社長 小野 圭一
お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
TEL 03-6865-7621

2024年8月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	8月度	上期累計	8月度	上期累計
百貨店事業	5.9	13.4	6.8	14.2
SC事業	11.5	12.0	13.9	15.2
デベロッパー事業	5.3	11.6	5.3	11.6
決済・金融事業	▲10.1	▲3.6	▲10.1	▲3.6
その他	▲1.2	▲13.8	▲1.3	▲13.7
連結合計	3.3	9.3	7.4	13.0

- ※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
4. 新所沢PARCOは、2024年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 8月度の売上高は、下旬の台風により下関店、博多大丸が2日間、高知大丸が1日臨時休業したことなどによるマイナス影響があったものの、宝飾品、ラグジュアリーブランド、化粧品が引き続き好調に推移したことなどにより、大丸松坂屋百貨店合計では対前年6.8%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同6.8%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年39.1%増(客数同47.5%増、客単価同▲5.7%減)となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年2.7%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の9月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、猛暑により秋物ファッションの動きが鈍いものの、化粧品が大きく売上を伸ばしていることに加え、宝飾品、ラグジュアリーブランドも好調に推移していることなどから、16日までの累計で対前年6.9%増で推移している。
- 9月度の免税売上高は対前年19.9%増(客数同56.6%増、客単価同▲23.4%減)、国内売上は同5.2%増で推移している。

2) SC事業

- 下旬の台風上陸の影響により、一部店舗にて臨時休業や営業時間短縮などを行ったものの、訪日外国人客の取り込み強化、前年からの改装効果などの継続により、全店計で13.7%増(既存店計16.4%増)。16店舗中14店舗が前年を上回った。特に訪日外国人客の取り込みの効果が大きかった心齋橋PARCOは42.6%増、渋谷PARCOは26.9%増の大幅伸長となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J.フロント建装がホテル内装工事、松坂屋名古屋店など百貨店改装工事の好調により増収となり、全体でも増収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、加盟店手数料が増加したものの、ポイント費用の増加などにより減収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、自動車部品、産業資材が前年実績を上回ったものの、電子デバイスなどが対前年マイナスとなり、全体でも減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
IR推進担当 TEL 03-6865-7621
グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2024年8月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	8月度		上期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	6.3	15.2	30.9	23.7
大丸 梅田店	6.3	4.6	8.8	5.2
大丸 東京店	6.3	▲3.2	9.8	1.2
大丸 京都店	8.0	0.2	21.4	0.7
大丸 神戸店	3.6	4.2	9.4	4.5
大丸 須磨店	3.7	▲3.3	▲0.5	▲1.9
大丸 芦屋店	▲3.8	4.4	▲0.8	4.6
大丸 札幌店	20.4	0.1	20.8	▲0.0
大丸 下関店	▲3.6	▲3.6	▲4.4	▲2.3
松坂屋 名古屋店	2.4	2.8	6.9	4.8
松坂屋 上野店	6.2	2.8	7.2	5.4
松坂屋 静岡店	▲0.0	▲4.8	1.0	▲1.0
松坂屋 高槻店	▲0.6	2.3	1.2	5.4
店 計	6.6	2.4	13.7	4.8
法人・本社等	14.8	-	26.7	-
大丸松坂屋百貨店合計	6.8	2.4	14.2	4.8
うち商品売上高	6.5	-	14.0	-
うち不動産賃貸収入	14.8	-	20.1	-
博多大丸	7.0	3.2	16.8	6.8
高知大丸	1.1	▲2.4	1.3	▲1.8
百貨店事業合計	6.8	2.4	14.2	4.8

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	8月度	上期累計
紳士服・洋品	▲0.4	▲0.0
婦人服・洋品	6.4	22.3
子供服・洋品	4.6	1.6
その他の衣料品	▲10.7	▲10.8
衣料品計	5.6	18.9
身 回 品	5.0	6.9
化粧品	8.1	23.2
美術・宝飾・貴金属	21.5	20.8
その他雑貨	▲10.6	▲17.4
雑 貨 計	14.1	19.5
家具	▲3.7	▲10.8
家電	17.8	4.2
その他の家庭用品	9.0	9.5
家庭用品計	5.8	4.2
生 鮮	0.4	▲0.7
菓 子	1.5	1.8
惣 菜	2.8	2.9
その他食料品	▲1.0	▲4.8
食料品計	1.3	0.4
食堂・喫茶	3.3	6.0
サービス	19.6	12.5
そ の 他	4.0	25.1
合 計	6.5	14.0

3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品は、名古屋店の大型改装による売場面積縮小などのマイナス影響があったものの、ラグジュアリーブランドが引き続き売上を牽引した。紳士服・洋品は、Tシャツやカジュアルシャツなどが活発に動いた一方で、単価が高いスーツなどの不調により対前年マイナスとなった。身回品では、アクセサリやハンドバッグのほか、婦人靴が売上を伸ばした。雑貨では、化粧品が好調を持続したほか、美術・宝飾・貴金属ではお得意様を対象とした催事効果などにより対前年2割超の増収となった。食料品では、下旬の台風による入店客数減少のマイナス要因があったものの、和洋酒やグロッサリーが好調に推移した。

2024年8月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	8月度	上期累計
札幌PARCO	17.1	23.7
仙台PARCO	15.3	8.4
浦和PARCO	12.0	12.7
池袋PARCO	16.1	17.8
PARCO_ya上野	11.2	8.4
ひばりが丘PARCO	▲13.1	▲7.3
吉祥寺PARCO	3.5	2.3
渋谷PARCO	26.9	38.7
錦糸町PARCO	10.1	9.9
調布PARCO	6.6	3.6
松本PARCO	▲24.1	▲24.8
静岡PARCO	31.2	8.5
名古屋PARCO	16.1	18.6
心齋橋PARCO	42.6	50.9
広島PARCO	10.3	8.7
福岡PARCO	12.7	13.9
全店計	13.7	14.9
既存店計	16.4	18.0

※注) 1. 新所沢PARCOは、2024年2月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、新所沢PARCOの前年実績値を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	8月度	上期累計
衣料品	10.2	9.3
身回品	14.4	16.5
雑貨	25.8	27.7
食品	▲4.4	▲5.6
飲食	10.2	9.9
その他	11.0	19.5
合計	13.7	14.9

3. 営業概況

- ・ 下旬の台風上陸の影響により、一部店舗にて臨時休業や営業時間短縮などを行ったものの、訪日外国人客の取り込み強化、前年からの改装効果などの継続により、全店計で13.7%増(既存店計16.4%増)。16店舗中14店舗が前年を上回った。特に訪日外国人客の取り込みの効果が大きかった心齋橋PARCOは42.6%増、渋谷PARCOは26.9%増の大幅伸長となった。
- ・ アイテム別では、雑貨が25.8%増と前年を大きく上回った。特にアニメやゲーム系コンテンツのキャラクター雑貨が心齋橋PARCO、名古屋PARCO、池袋PARCO、渋谷PARCOを中心に好調だった。その他については、期間限定の展覧会も含めたイベントショップでコンテンツがヒットするなど、11.0%増と好調だった。食品については新所沢PARCO閉館の影響が大きく▲4.4%となった。